

2020年度 学校評価公表シート

江別キリスト教学園 認定こども園 若葉幼稚園

本園では、キリスト教の精神に基づき、乳幼児が神様からあたえられた尊い命を生き、成長する力を秘めた「光の子」であり、目に映る事柄の背景に神様の守りと導きを信じ、安心する心、感謝する心、優しい心が育てられていくことを大切にしています。2020年度は新型コロナウイルス感染症によって、多くの制約がありましたが、基本的な姿勢を崩さず歩むことができたことを感謝しています。

以上を展開する保育目標を6項目挙げ、日々の保育に取り組んでいます。

- 1.神の愛を知り、神が共にいてくださることを知る。
- 2.神から与えられる命の尊さを知り、命を大切にする。
- 3.思いやりの心を持ち、友達にやさしくできる。
- 4.美しいものに感動し、自分たちも美しいものを作り出す。
- 5.自分の考えをはっきり述べ、友達の生活も大切にする。
- 6.全身を使ってのびのびと遊ぶ。

評価項目の達成および取り組み状況、評価委員会による評価

評価項目	取り組み状況	評価
保育・教育の計画性について	「幼稚園教育要領・教育課程」を踏まえ、園の保育理念、目標が達成されるよう、計画し実践に取り組んでいる。職員の意識は高いが、キリスト教に基づく保育という面ではキリスト者に任せている傾向が強い。また、園の姿勢を全職員が自分の言葉で伝えられるようになることが課題である。	B
保育目標の1～3について	日々の活動の中、賛美と祈りによって節目が刻まれている。週に一度幼児の合同礼拝、月に一度全園児の合同礼拝があり、自分の命の尊さと共に生きる友達を思いやる心についてのメッセージを確認している。だれもがメッセージを語れるようになることが課題である。	A
園児の実態に合わせた具体的な対応について	毎週の職員打ち合わせにおいて、行事や制作活動、給食の様子他で体調面・精神面で注意が必要な園児を確認することを励行している。園児の実態を把握し、各園児の成長の違いを考慮しながら対応についても共有している。	A
保育者の資質・能力・良識について	自己点検において、意識の高さを認めることができる。課題は、乳幼児に対してその尊厳を尊重する姿勢の深まりと、同僚他者に対しての評価を同様に維持できる協同性のさらなる追求である。	A

保護者・家庭との連絡対応について	「連絡ノート」を通じて、家庭での様子を把握し、園での取り組みを伝えることは意欲的に取り組まれている。保育の合間になされる作業となり、時間確保が課題である。否定的な言及ではなく、改善に必要なことを伝える努力をしている。	B
全身を使って遊ぶについて	日々の活動の中で、よく実践されている。夏場にはプール遊び、冬場にはそりすべり、また、鉄棒、跳び箱、竹馬、など、園児が意欲的に取り組んでいる。全体への目配り、けがの予防が常に求められる。	A
地域の自然や社会とのかかわりについて	園外保育として地域の自然と触れあい、園庭に花や野菜を育て、近在農家の協力を得て「サツマイモの苗植え・収穫」「イチゴ狩り」など、嬉々として取り組む様子が伺える。散歩で近隣の人と出会うときには、積極的に挨拶を交わしている。	A
研修と研究について	年間計画を立てての園内研修、また外部への研修参加は積極的に促している。職員の研修への意欲は高く、保育研究を日々の質向上につなげようとしている。オンラインによる研修に複数の保育士が臨んだときには、全体で保育体制を維持すべく配慮協力する様子が見えた。	A

上記の評価は7人の評価委員にA～Dの評価をいただいたものを点数化し、合計点を再度A～Dに振り分けたものである。概ね高評価をいただいているが、さらなる充実を目指す所存である。